

池田家文庫資料叢書 1

御留帳御船手

下

岡山大学出版会

池田家文庫資料叢書の刊行にあたって

国立大学法人岡山大学

学長 千葉 喬 三

岡山大学は、昭和二四年（一九四九）に戦後の復興を願う地元岡山の人びとのあつい期待を受けて、新制大学として創立された。当初は五学部であったが、現在では七研究科・一一学部を擁する総合大学として発展を遂げ、平成二二年（二〇〇九）には創立六〇周年を迎えた。これを機に「西日本の学都」としてのさらなる飛躍を期しているところである。

本学の創立にあたっては、地元の有志の方々が「岡山総合大学設立期成会」を設立され、物資の乏しい時期に教育・研究環境の整備のために多大のご尽力をいただいた。その後の本学の発展も、そうした地元のご支援の賜物である。この支援に応えるために、さまざまなかたちで地域連携を進めることは、本学の重要な課題だと考えている。

池田家文庫も、教育・研究の資材の一つとして池田家のご厚意と「期成会」のご努力によって本学

に寄贈されたものであり、岡山大学附属図書館に所蔵している。池田家は江戸時代に岡山地域を領地とした大名であり、その文庫は質量ともに全国有数の大名家資料として国内外に広く知られている。これを本学での教育・研究に活用するとともに、広く一般の利用に供することは、本学に課せられた責務である。そのため、大学創立一〇周年を記念した展示会以来たびたび公開の機会を設けるとともに、最近では藩政文書のマイクロフィルム化や絵図類のデジタル画像化などの事業を附属図書館として実施し、利用の便宜を図ってきたところでもある。

池田家文庫の貴重資料の刊行は、三〇年ほど前に一時期行われたが、その後は長く途絶えていた。しかし、貴重資料の刊行は池田家文庫の活用うえで欠かせないものであり、継続的な取り組みが必要な事業である。本学では平成一九年（二〇〇七）に岡山大学出版会を設立したが、このたび創立六〇周年記念事業の一つとして「池田家文庫資料叢書」を出版会から刊行することとした。この叢書の刊行によって、池田家文庫の価値がますます高まることであろう。

本叢書が多くの方々によって利用され、日本歴史を解明する一助となることを願ってやまない。

平成二二年二月

目次

池田家文庫資料叢書の刊行にあたって

目次

総目次

凡例

地図

延宝七年 御留帳御船手…………… (1)

延宝八年 御留帳御船手…………… (163)

天和元年 御留帳御船手…………… (261)

天和二年	御留帳御船手……………	(367)
天和三年	御留帳御船手……………	(479)
貞享二年	御留帳御船手……………	(568)
貞享三年	御評定書御船手……………	(669)

総目次

池田家文庫資料叢書の刊行にあたって	上卷
解説	〃
延宝元年 御留帳御船手	上卷
延宝二年 御留帳御船手	〃
延宝三年 御留帳御船手	〃
延宝四年 御留帳御船手	〃
延宝五年 御留帳御船手	〃
延宝六年 御留帳御船手	〃
延宝七年 御留帳御船手	下卷
延宝八年 御留帳御船手	〃
天和元年 御留帳御船手	〃
天和二年 御留帳御船手	〃
天和三年 御留帳御船手	〃
貞享二年 御留帳御船手	〃
貞享三年 御評定書御船手	〃

(669) (568) (479) (367) (261) (163) (1) (506) (387) (260) (171) (90) (1) (ix) (i)

凡例

一本書は岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫に収められている岡山藩「御留帳御船手」一三冊（総目録番号N2-1～13）を翻刻し、池田家文庫資料叢書1として刊行するものである。全体は大部なので、上下二分冊とし、上巻には延宝元年～六年分（N2-1～6）を、下巻には延宝七年～貞享三年分（N2-7～13）をそれぞれ収めた。

一目次はその分冊のものとし、総目次を下巻に付した。

一翻刻にあたっては、できるかぎり原本の体裁を再現するように努めたが、紙面の都合上、または読みやすさを考えて、変更を加えたところもある。改行はいちいち指摘せず、闕字・平出は一字あけで示した。

一表紙は、およその形状を罫線枠で囲んで示した。朱書された貼紙の内容は、「」を付けて記し、右肩に（貼紙朱書）と注記した。

一史料本文の字体は原則として常用漢字を用い、異体字・略字・俗字・あて字については一部を使用し、必要に応じて通用の文字を（）で示した。地名などの表記が通用のものと異なる場合、適宜現行の文字を（）で示した。

一史料を読みやすくするために、適宜、読点（、）、並列点（・）を付けた。

一明らかに誤字・誤記と思われるものは、右行間に正しいものを（）で示し、疑念が残

る場合は（カ）とした。脱字と思われるものは（脱）（脱カ）、重複していると思われるものは（衍）（衍カ）とした。意味不明の場合は（ママ）とした。

一付紙や懸紙は、その付近に内容を「」を付けて示し、右肩に（付紙）などと注記した。
一変体かなは平かなに改めたが、格助詞のうち次の文字と、接続詞の「并」は活字を小さくして使用した。

者（は） 江（え） ニ（に） 茂（も） 与（と） 而（て）
而已（のみ）

一くりかえし記号は、「々」「々々」（漢字）、「、」（ひらかな）、「、」（カタカナ）、「く」（二字以上の熟語）を用いた。

一旧字体のうち、次のものは新字体に改めずにそのまま使用した。

龍 瀧 籠 嶋 餘 飴 冝 冨 舛 縣

一異体字・俗字・略字・合字については、次のものを使用した。

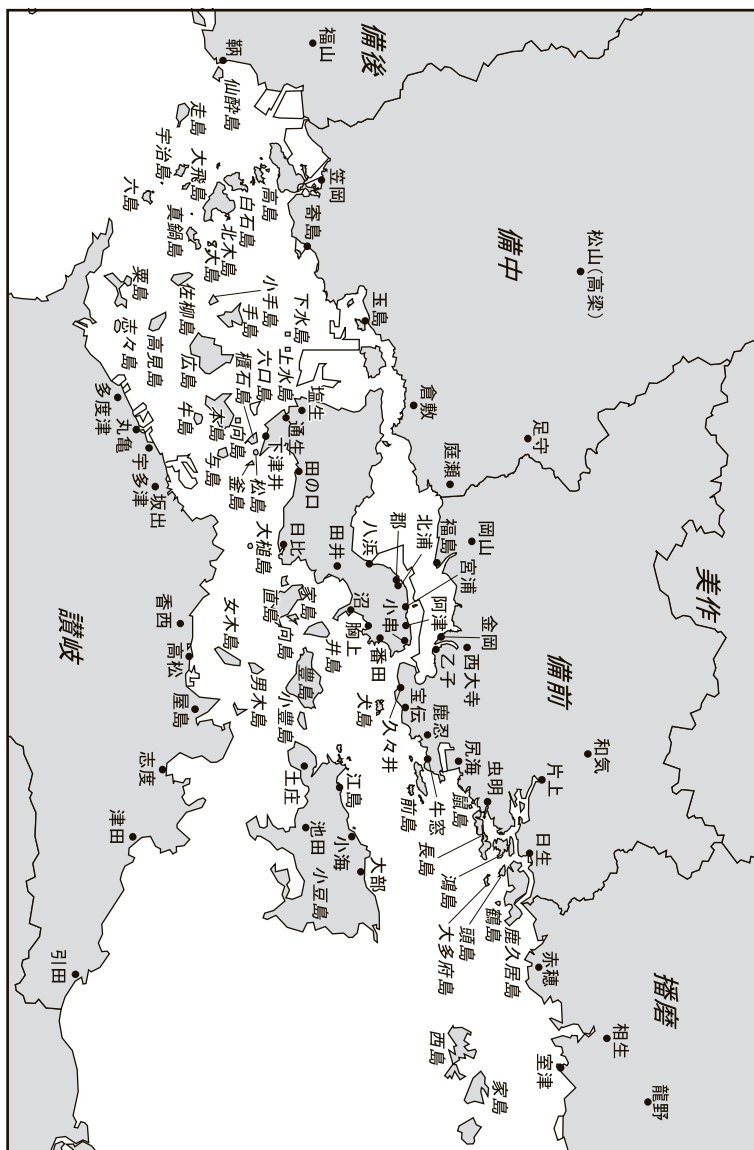
玼（珍）	𪛗（体）	𪛗（悴・倅）	𪛗（扱）	并（并）	𪛗（州）
𪛗（異）	𪛗（畢）	𪛗（糧）	扣（控）	𪛗（紙）	𪛗（歟）
𪛗（最）	𪛗（牢）	𪛗（歌）	沉（沈）	𪛗（磯）	𪛗（弔）
𪛗（石）	脉（脈）	𪛗（とて）	𪛗（しめ）	𪛗（等）	𪛗（より）

一江戸時代には制度的・慣習的な身分や格式が存在しており、現代からみれば差別的な事

実や言動、用語などが一般に通用していた。そのため史料のなかには、そうした表現や事実が記載されていることもあるが、正しい歴史認識を形成するためには、史料に基づいて歴史的な事実を明らかにする必要があるとの立場から、そのまま掲載した。ただし、固有名詞との関連で現在の差別を助長しかなえない場合は記載を差し控え、□□で示したところがある。

一本叢書の企画・編集は岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会（岡山大学社会文化科学研究科教授倉地克直・同研究科教授久野修義・同研究科准教授山本秀樹、附属図書館事務部学術情報サービス課長大元利彦）がおこなった。

本書の原稿作成には、岡山大学文学部日本史研究室の歴代所属学生の協力を、また地図作成には今津勝紀（社会文化科学研究科准教授）の協力をそれぞれ得た。原本との照合・割付・校正は倉地克直と青木充子が行い、倉地が監修した。解説は倉地が執筆した。



〔地図〕瀬戸内海備瀬戸海域

池田家文庫資料叢書Ⅰ

御留帳御船手 下

二〇一〇年五月三十一日 初版第一刷発行

編者 岡山大学附属図書館貴重資料刊行推進会

(代表 倉地克直)

発行者 千葉喬三

発行所 岡山大学出版会

岡山県岡山市北区津島中三丁目一番一号

TEL 〇八六(二五)七三〇六

FAX 〇八六(二五)七三一四

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp/up/>

印刷 友野印刷株式会社

岡山県岡山市北区高柳西町一―二三

ISBN978-4-904228-11-1 C3021

落丁・乱丁本はお取替えいたします。
本書の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。